



はじめて歯科治療を受けるお子さまのママへ。

初めて歯医者さんに行ったときのことを覚えていますか？

なんとなく不安な消毒薬の匂い、耳障りなタービンの音、いつ自分の名前を呼ばれるのか、少し、いらいらしながら待っている間の焦燥感・・・

残念ながら、我々大人にとって、歯科医院はあまりリラックスできるところではありません。ましてや、子供にとっては、ただ恐ろしいだけのところ、治療は拷問と同じ でしょうか？ 実は歯科治療の経験の全く無い幼児にとって、歯科医院が恐ろしい場所になるかどうかは、お母さんが鍵を握っている場合が多いのです。

歯科治療はピーマンと同じ。良い体験が ピーマンを食べられるようにする。

経験も知識もない場合、好き嫌いを決めるのは、その場の雰囲気と過去の体験です。初めて噛んだピーマンは確かに、味覚の発達していない幼児にとって奇妙な味だと思いますが、その時に家族が大変楽しい雰囲気です。食事をしている、大人がピーマンをさもおいしそうに食べていると、やがて次第にピーマンが食べられるようになるのではないのでしょうか。またピーマンを少しでも食べれたとき、周囲の大人がすぐにほめてあげれば、さらに子供は張り切って食べることもあるでしょう。

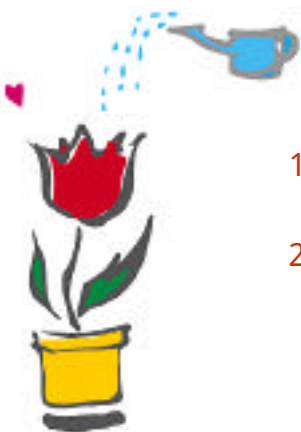


お母さんとお子さんとの距離感

まだ、言葉を話せない乳幼児の場合は、お母さんの膝の上で治療せざるをえない場合が多くなります。言葉のやりとりが、ある程度できるようになったなら、**少しずつ、お母さんが小児から、心理的に適切な、ある距離感をもって離れる努力を行い、**お子さんを少し脇の方から見守ることが大切です。普通3才以上の幼児または小児の場合、機会さえ与えられれば、我々大人が想像する以上の意外なほどの状況への対処能力を発揮するものです。ひとりで未知の状況へ対応する経験は大人にとっても、緊張と不安を伴うものですが、私達が忘れていた子供の心は、傷付きやすい反面、また驚く程柔軟なものなのです。普段から少しずつ、自分で判断する機会を与えてあげれば、3ヶ月くらいで、次第に大人と同等以上の治療が可能になっていきます。心が成長していく大切な機会を奪い、お子さんをスポイルさせてしまっはいいけません。

歯科治療を成功させるには、

- 1、年令が低いほど、一日のうちで、機嫌の良い時間帯を選んであげてください。疲れていたり、眠たくてしかたのないときなど、大人でも治療が嫌なものです。
- 2、時間的に余裕のないスケジュールは避けましょう。小児の取り扱いは極めて困難なために、必要なスタッフの手が空くまで、前後の治療の関係からお約束の時間どおりお呼びできないことがあります。お母さんのいらいらはお子さんにそのまま反映してしまいます。





- 3.無理だとは思いますが、歯科医院へ行く前に、ディズニーランドへ行くことを想像してください。歯医者に行くことが、小児にとって、楽しい行事になるように、『さあ、今日も歯医者さんでリカちゃんの歯を食べている、バイキンマンをやっつけてもらおう。上手にできたら、パパに誉めてもらおうね。』など、工夫してください。
- 4.来院時に普段良く遊んでいる人形やお気に入りの玩具などを、持ってこられるのも安心感を与える一つの方法です。
- 5.歯科治療を他のしつけにおいて罰の素材に使わないでください。
例えば『言うことを聞かないと、歯医者に連れていくわよ!』というのは歯科治療に必要以上の恐怖感を植え付けます。
- 6.治療開始前に『痛くないわよ。すぐ終わるわよ。』など根拠のない説明は避けましょう。治療の内容によっては、麻酔の注射など、多少の痛みに耐える必要があったり、短時間で治療が終了しない場合は充分考えられ、その場合、お子さんは嘘を言われたと感じるでしょう。
- 7.治療ができるようになる前に、救急処置を除いては、治療を受け入れる**トレーニング**が必要になります。目的は将来にわたって、歯科治療に対する信頼感を獲得してもらい、いわゆる『歯科恐怖症』をつくらないためです。



トレーニングのステップアップ

A. 待ち合い室で、リラックスできる。

B. 診療室で、リラックスできる。

C. お母さんと一緒にチェアに座ることができる。

D. 歯ブラシをやらせる。

E. コップを使い、ウガイができる。

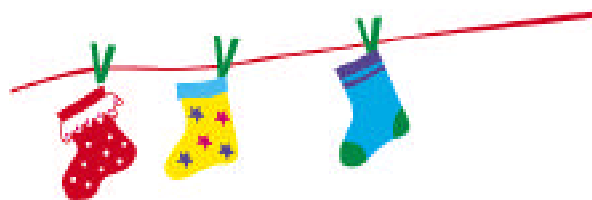
F. 母親が脇に居れば、一人でチェアに座ることができる。

G. 器械の歯ブラシができる。 → H. タービンが使える。

J. あらゆる治療がひとりで出来る。

I. 歯の型を採ることができる。

あくまでも、目安にすぎませんが、早い小児で2回、困難な場合には6回以上もトレーニングに来院しなければなりません。一般に男の子のほうが回数がかかります。



E. に進めない場合 → E2. 限定的な治療。

ただし、パニック発作や情緒障害のあるお子さまの場合、もう少し時間がかかります。

YOROSHIKU

